

《 諫 干 だ よ り 》

◆◆◆2006/12/1◆◆◆

◆◆◆目 次

- ◆諫早湾干拓事業にかかる最近の動き
- ◆トピックス
 - ◇「ISE(アイ・シー)ネット」の諫早エコフェスタへの出展参加について
 - ◇諫早湾干拓事務所の諫早エコフェスタへの出展参加について
 - ◇諫早市の農林水産省への政府施策要望について
 - ◇ながさき実り・恵みの感謝祭の開催について
 - ◇長崎県の農林水産省への政府施策要望について
 - ◇諫早湾干拓農地におけるJA営農事業検討協議会について
- ◆総合農試干拓科だより(環境保全型施肥技術確立への取り組み)
- ◆九州農政局干拓事務所通信(基盤整備の状況)
- ◆九州農政局通信(農地・水・環境保全対策)
- ◆その他(意見、提案の募集)
- 編集後記

◆◆◆諫早湾干拓事業にかかる最近の動き

- 平成18年11月5日(日)
 - 「ISE(アイ・シー)ネット」及び諫早湾干拓事務所が諫早エコフェスタへの出展参加した。
- 平成18年11月15日(水)
 - 諫早市より農林水産省へ政府政策要望がなされた。
- 平成18年11月18日(土)～19日(日)
 - ながさき実り・恵みの感謝祭が開催された。
- 平成18年11月20日(月)
 - 長崎県より農林水産省へ政府施策要望がなされた。
- 平成18年11月28日(火)
 - 諫早湾干拓農地におけるJA営農事業検討協議会が開催された。

◆◆◆トピックス

◆◇◇「ISE(アイ・シー)ネット」の諫早エコフェスタへの出展参加について……………

11月5日(日)午後、諫早市、いさはやアエル中央商店街にて「いさはやエコフェスタ」が開催されました。

「水」と「環境」を考える市民のつどいとして、各種のイベントが行われると共に、多くの団体から活動の紹介や実演・体験のコーナーなどが設けられ、多くの来場者の方々から取り組み状況を見てもらいました。

「ISE(アイ・シー)ネット」も環境保全活動の紹介として、イケチョウ貝の展示や会員の活動状況のパネル展示を行いました。

訪れた多くの市民に環境活動を知ってもらうことや、今後、各自の活動の輪がさらに広がることを期待されます。

○いさはやエコフェスタの様子



ISEネット展示



イケチョウガイ水槽展示

※「ISE(アイ・シー)ネット」は、「Isahaya Sea Ecology Network」の略で諫早湾干拓調整池の流域を自然豊かな水辺空間として育むため、民間・行政等で組織された住民ネットワーク。

★メンバーを募集しております。

お問い合わせ先: 県環境政策課まで。

TEL095-895-2355 fax095-895-2566

◆◇◇諫早湾干拓事務所の諫早エコフェスタへの出展参加について

諫早湾干拓事務所も「平成18年度いさはやエコフェスタ」に参加しました。

本事務所では、諫早市街を流れ諫早湾干拓調整池に流入する本明川にスポットを当て、本明川中流、調整池、生活排水の水を採水し、水質の違いを体験して頂くための簡易水質テスト体験(COD*パケットテスト**)ブースを設置しました。

多くの方々に参加して頂き、水の色が変わる様子に驚く声や真剣な眼差しで変化した水の色を観察される方など様々な反応がありました。

※COD: 水の中に汚れがどのくらい含まれているかを示す指標です。

パケットテスト: 簡単に水質を測定することのできる水質測定器材です。



簡易水質テスト体験の様子



ブースの様子

◆◇◇諫早市の農林水産省への政府施策要望について

11月15日(水)、副島助役と古川市議会議長は、松岡農林水産大臣、山田農村振興局長に対して、諫早市施策要望として国営諫早湾干拓地の営農確立支援及び調整池の水質保全対策等の項目を要望しました。なお、要望は以下のとおりです。

【要望の概要】

1. 国営諫早湾干拓地の営農確立支援及び調整池の水質保全対策について
諫早湾岸地域の防災機能の強化と生産性の高い農業の振興のため、円滑な工事の推進及び調整池の水質保全対策の促進を要望いたします。併せて、自然干陸地についても調整池を含めた利活用の推進が図られるよう、配慮ください。
2. 国営諫早湾干拓事業背後地における排水対策の整備促進について
水田の汎用化を図り、併せて転作作物の円滑な導入を推進するため、小野平野における各種排水対策事業の早期完成に向けてご配慮をお願いします。

松岡大臣と面談中の副島助役と
古川市議会議長



◆◇◇ながさき実り・恵みの感謝祭の開催について……………

11月18日(土)～19日(日)に「ながさき実り・恵みの感謝祭」が長崎水辺の森公園で開催されました。本感謝祭は、県産の食材をPRし、地産地消を図る目的で開催されたものですが、県内の農協、漁協、食品販売業者などたくさんのブースが構えられ、旬の農産品や水産物が販売されました。1日目はあいにく天候がよくありませんでしたが、2日目は回復し、多くの人で賑わいました。諫早湾干拓事業についてもPRの専用ブースを設置し、諫早湾干拓農地における試験栽培でできた馬鈴薯やにんじん、タマネギなど見られて、その出来映えに驚いておられました。なかには、干拓農地での営農を希望されている方が熱心に公募基準や干拓農地の区画、設備等質問されている方もいらっしゃいました。そして、諫早湾干拓事業の事業効果や潮受堤防について等のクイズに多くの方が参加されました。なお、正解者の中から抽選で年末に諫早湾干拓農地での試験栽培で採れた野菜をお送りすることとしております。



諫早湾干拓事業のブースの様子

◆◇◇長崎県の農林水産省への政府施策要望について……………

長崎県は、11月21日(火)に農林水産省に対して、平成19年度政府予算の財務省内示を前に政府施策に関する提案と要望活動を実施しました。農林水産省おついては、金子知事が井手農林水産大臣官房長、山田農村振興局長等と面談し、今後の干拓農地での営農確立のための各種支援制度拡充や創設などを求めました。

なお、要望書の内容は以下のとおりです。

国営諫早湾干拓事業の早期営農確立支援並びに調整池水辺環境の保全と創造支援等について

国営干拓事業は、地域住民の安全な暮らしを確保するとともに、21世紀における本県農業の振興を図るうえで極めて重要な事業であります。本県としては、平成19年度事業完成に向け、干拓地について環境保全型農業の積極的な推進や農地リース方式の導入等による新しい営農展開を目指しており、その実現のため各種支援対策が不可欠です。加えて調整池の水辺環境の保全と創造が必要となっております。

このため、次のとおり要望します。

- 1 早期営農確立のための各種支援制度の拡充・創設
- 2 環境保全型農業や農地リース事業の展開等に係る国、県一体となった取り組み
- 3 干拓地や土地改良施設の適切な維持管理に係る支援
- 4 潮受堤防管理に対する国の関与
- 5 「諫早湾干拓調整池水辺環境の保全と創造のための行動計画」に基づく水質保全対策や水辺空間づくりの推進及び支援

◆諫早湾干拓農地におけるJA営農事業検討協議会について……………

11月28日に、長崎市で「諫早湾干拓農地におけるJA営農事業検討協議会」が開催されました。

この協議会は、諫早湾干拓での営農開始を平成20年度に控え、農協組合員の営農希望者も多いことから、今後、農協組織として諫早湾干拓地での営農の支援方向について検討するために開催されたもので、県下農協、JA全農ながさき、JA共済連長崎、農林中央金庫長崎支店、JA長崎県中央会が構成員になっています。

この日の協議会では、諫早湾干拓室の樋口課長補佐から、諫早事業の営農開始に向けたスケジュール、公募基準(案)、営農支援策等について説明があった後、農協としての今後の営農の支援策について協議されました。

来年度の公募に向けて、農協組合員の営農意向の把握と組織化、営農計画及び資金計画策定への支援、農産物の集出荷対策についての検討が行われました。来年度の公募開始まで残された日数はあとわずかであり、スムーズに営農が開始できるよう農協組織としても万全の体制で支援できるよう準備が進められてきます。

◆◇◇総合農試干拓科だより……………

営農試験 Now

長崎県総合農林試験場干拓科 山田 寧直

環境保全型施肥技術確立への取り組み (その2諫早湾干拓土壌の特性を活かした施肥技術の検討)

11月号では畑に施した肥料成分の排出実態解明への試みについて紹介しました。今回は諫早湾干拓土壌の特性や1区画6haの大規模営農に合わせた環境保全型施肥技術を確立するため、干拓科で実施している取り組みについて報告します。

◆諫早湾干拓土壌の特徴と土づくり対策

諫早湾干拓の土壌は通称「ガタ土」と言われている海底土であり、粘土とシルトの細かな粒子が85%以上を占めています。そのため、黒ボク土(雲仙市・大村市)や赤黄色土(多良山麓・西彼・県北の丘陵地)の畑地とは異なる性質を持っています。

化学的には、粘土による保肥力が高く、腐植含量(炭素)と窒素成分を除くリン酸や陽イオン類の養分が長崎県土壌診断基準値(野菜畑)以上含んでいる肥沃な土壌です(表1)。海岸であった干潟をそのまま農地としたため、干陸当初は土壌の酸度が弱アルカリ性で塩分濃度も高い状態でしたが、年間約2000mmの降雨に加え、2年間4作の飼料作(トウモロコシやイタリアンライグラスなど)の栽培・鋤込みと暗渠弾丸等の排水対策によって除塩できました(H14年成果情報参照)。

物理的には、粘土の粘着力が高いため降雨後は作業がしづらく、ほ場排水性も劣ることが欠

表1 作付5年後の土壌理化学性の変化

調査日	層位	深さ (cm)	仮比重 (g/mL)	飽和透水 係数 (cm/sec)	生土		可給態 リン酸 (mg/乾土100g)	CEC (me/乾土100g)	交換性塩基(mg/乾土100g)				塩基飽 和度 (%)	全炭素 (%)	全窒素 (%)	可給態 窒素 (mg/乾土100g)
					pH(H ₂ O)	EC(1:5) (μS/cm)			CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O				
2000/3/20	—	0~15	0.67	—	8.7	0.91	55	38.5	708	326	489	542	181	1.56	0.22	3.4
	—	15~35	0.64	—	8.8	1.70	58	37.8	516	331	571	783	192	1.54	0.21	—
2005/5/16	1	0~18	0.81	2.9×10 ⁻³	5.9	0.08	41	42.4	517	275	195	61	90	1.99	0.19	4.3
	2	18~55	0.72	4.3×10 ⁻²	6.6	0.11	35	42.1	525	341	178	91	100	1.55	0.16	—
県土壌診断基準(野菜畑)			0.8~1.1	10 ⁻⁴ 以上	6.0~6.5	0.2以下	20以上	15以上	220以上	30以上	15~40	—	60~80	1.7以上	—	5.0以上

※中央干拓地試験ほ場、夏作ソルガムー冬作イタリアンライグラス体系、10作後、堆肥施用なし

※県土壌診断基準：野菜畑・露地・非火山灰土より転記、ECと可給態窒素は地力増進基本指針での改良目標値

点です。そこで有機物による早期土壌改良技術の確立に取り組み、堆肥連用により全炭素、可給態窒素、孔隙率等は増加し、牛ふん堆肥施用では緑肥作物や冬キャベツが初年目から増収しました。牛ふん堆肥の4t連用は過剰な養分蓄積が認められるので、干陸初期の土づくりには牛ふん堆肥2t/10a/年の施用でよいことがわかりました(H15年成果情報)。

◆初期干拓土壌に対する窒素成分の施肥量設定

環境に配慮した営農を展開できるよう、まず営農計画に挙げられるばれいしょ、ニンジン、レタス、タマネギ等の適正窒素施肥量を検討しました。結果は表2に示したとおり春ばれいしょ、ニンジンでは県施肥基準よりも少ない窒素施用で目標収量(県基準技術)が得られ、秋ばれいしょ、レタス、キク(施設)、ダイコン、早生タマネギ、キャベツ、ハクサイ、ブロッコリーでは県施肥基準並みの施肥量で十分でした(H15~17年成果情報)。ハクサイなどの葉菜類では初期生育が重要であり、肥料の分施や条施用等の施肥技術の改善・改良で化学肥料の削減が可能でした。

一方、リン酸及びカリウムは作付5年後の土壌においても県土壌診断基準値以上を維持しており(表1)、目標収量を確保するには窒素肥料だけで栽培できます。リン酸及び加里肥料の品質や貯蔵性等に与える影響については今後検討を進める必要があります。

イチゴ、トマト、アスパラガス、カーネーション等の施設野菜の施肥量も現在試験中で、平成19年度に策定する営農対策指針に取り入れる予定です。

◆肥効調節型肥料の利用と局所施肥の実証

露地野菜における施肥量の削減と追肥作業の省力化のため、肥効調節型肥料は重要なアイテムです。LPコート(特殊な樹脂組成物で尿素粒をコーティングし、溶出速度をコントロールした窒素肥料)の効果をタマネギ、冬キャベツ等で試験しました。栽培期間が低温になるためLPコートは溶出が遅れ、増収効果には年次間差がありましたが、その有効性は確認することができました。

ついで福岡県内で普及しているK社製畦内施肥機付成型ロータリー(写真2)によるLPコート・硫安ブレンド肥料の局所施用と作業効率の向上に試みました。冬キャベツにおいて県基準施肥量(N-30kg/10a)では化学肥料並の収量を確保でき(図1)、全自動移植機との組み合わせで定植作業の省力化が可能でした。2年目の今年は冬キャベツ、秋冬ハクサイで試験を行い、キャベツでは窒素肥料20%削減を目指しています。

表2 干陸当初の窒素施肥量

品目	現状で目標収量を確保する施肥量	県施肥基準(N-P-K)
春ばれいしょ	N-11	14-14-12
秋ばれいしょ	N-11+追肥N-3	14-14-12
ニンジン	N-12+追肥N-3	20-18-20
レタス	N-20	20-25-20
キク(施設)	N-30	30-30-30
ダイコン	N-20	20-15-20
タマネギ	N-18~23	23-25-23(早生) 25-27-25(普通)
キャベツ	N-24~30	30-15-25
ハクサイ	N-24~30	30-15-25
ブロッコリー	N-21~27	30-25-30

※堆肥2 t /10a 施用 (キクは4t/10a)



写真2 畦内施肥機付成型ロータリー

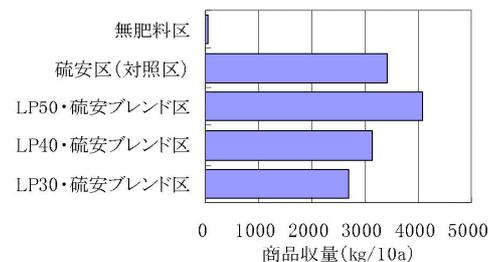


図1 LPコートブレンドによるキャベツ収量

品種：金系201、施肥 N-30kg/10a
2005年9月20日定植、12月8・10日収穫

※LPコートは全施肥量の25%を硫安にブレンド

◆家畜糞の有機質肥料としての活用

県央地域周辺には酪農や畜産業者が多く、家畜ふん堆肥が広く流通しています。化学肥料代替として牛ふん堆肥、豚ふん堆肥、鶏ふんの利用を冬キャベツで検討しましたが、目標収量を確保できませんでした。各堆肥からの窒素発現パターンの把握が難しく、マルチングや局所散布等より効果的な施用技術が必要です。

近年九州各地では成分調整成型堆肥(ペレット堆肥)の利用が進んでいます。成分調整成型堆肥は、牛ふん等堆肥と菜種油かす等の有機質資材を混合し、肥料成分を調整したものをペレット状に成形した堆肥です(写真3)。有機質肥料として利用するため、窒素の肥効調整とカリウム等のほ場集積を回避するため作られています。成分調整成型堆肥と油粕のみで栽培した冬キャベツの収量は化学肥料区の約 1/2 でしたが、今年は化学肥料と組み合わせた特別栽培農産物レベルでの検討を行っており、順調に生育し結球期を迎えています。さらに窒素付加した成分調整成型堆肥が製品化されており、タマネギ、ばれいしょ等でその効果を試験する計画です。



◆総合体系への取り組みへ

このほかに施設栽培では環境保全型施肥技術として、溶液土耕栽培が挙げられます。干拓科でもカーネーションで試験を行っています。またイチゴのベンチ栽培では液肥の循環利用や廃液処理技術も課題となっています。

諫早湾干拓地で環境保全型農業を進めるためには、これらの施肥技術ばかりでなく、黄色蛍光灯や天敵などを利用する病害虫対策、雑草の除草対策などの技術を体系化することが期待されています。私たち試験場では干拓地の特性を利用した環境保全型農業技術を確立し、入植される方々に広く技術普及できるように共同研究等含めた試験研究の実施を検討しています。今後の試験研究にご期待ください。



写真4 キャベツ試験ほ場の黄色灯

◆◇◇九州農政局干拓事務所通信(基盤整備の状況について)

1. 農業用施設用地について

農業用施設用地は、干拓農地の配分と併せて営農に必要な農機具庫等の施設用地として、ほ場内にその用地を確保することとしています。

農業用施設用地は、希望される経営規模及び経営内容によって必要な規模が異なりますが、耕種部門においては 10a / ほ場 3ha 当たり、畜種部門は 1ha / 1 経営体当たりを基準としています。

2. 園芸用施設、畜舎の基盤整備について

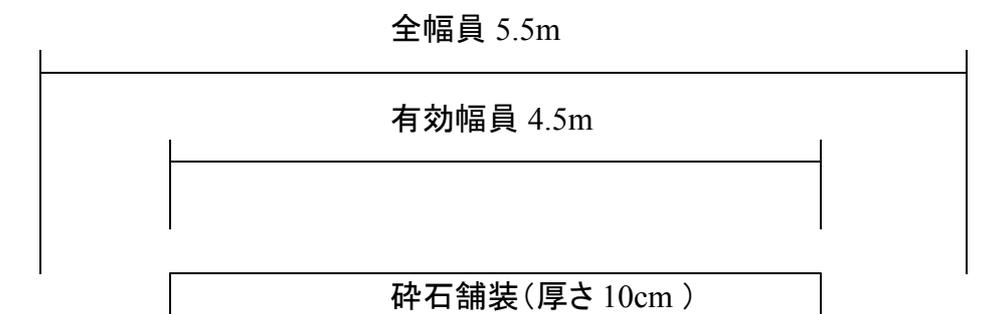
いちごやアスパラガス等の園芸用施設や畜舎等の施設を設置する場合は、干拓地の地盤の特性から、施設の規模・構造により基礎工事が必要となる場合があります。

この費用については、農業者に負担していただくこととなります。

3. 耕作道路について

営農の利便性、営農形態の多様化へ対応できるよう、全てのほ場は道路から直接耕作地に進出可能となるよう耕作道路を設置しています。

構造は、車両のすれ違いを考慮し全幅 5.5 mで、うち有効幅員は 4.5 m(碎石舗装)となっています。



◆◇◇九州農政局通信(農地・水・環境保全対策(市町村との協定))
 今回は、これまで紹介してきました対策の各ステップを踏まえた、助成金の交付内容等を紹介いたします。

助成金の交付要件

要件の区分			助成に必要な条件	
体制の要件	規約		活動組織規約を策定	
	協定		市町村と協定を締結	
活動の要件	基礎部分	資源の適切な保全活動	点検活動	活動指針の全項目を実施
			計画策定	
			実践活動	
	誘導部分	農地・水向上活動	機能診断	活動指針の全項目を実施
			計画策定	
			実践活動	活動指針の一定以上の項目を実施
誘導部分	農村環境向上活動	計画策定	活動指針から、環境のテーマを選んで、「計画、啓発・普及、実践」を各々セットで一定以上実施	
		啓発普及		
		実践活動		

助成金の交付を受けるための要件は左記のとおりで、基本的には、

- ア. 活動組織の体制が、助成金を受け取れる状態に整っていること。(体制の要件)
- イ. 活動組織の活動が、一定の水準を満たすものであること。(活動の要件)

の2つの条件を満たしている必要があります。

「ア. 体制の要件」は、①活動組織規約、②協定の2点がきちんと整えられているかどうか

かで判定されます。

「イ. 活動の要件」は、活動計画を「活動指針」と照らし合わせて、

- ①基礎部分の活動項目をすべて実施すること
- ②誘導部分の活動項目の一定量以上を実施すること

が、活動計画に盛り込まれているかどうかで判定され、ア・イの要件をいずれも満たす活動組織が助成の対象となります。

支援交付金の単価

	都府県	北海道
水田	4,400円/10a	3,400円/10a
畑	2,800円/10a	1,200円/10a
草地	400円/10a	200円/10a

交付額は、上記の単価に農地面積(農振農用地に限る)を乗じて算出。
畑は、普通畑及び樹園地。
草地は、牧草地及び採草放牧地。
上表は、国と地方公共団体の合計額。

助成の水準は、活動組織内の農地面積に応じて、助成金が交付され、現時点での助成金の単価は左表のとおり想定されています。

また、より高度な取組を行う活動組織には促進費が交付されます。この促進費は、地域共同の活動を更により良いものにステップアップさせることを狙いとしており、促進費の対象となるのは、さらに高度な資源保全活動のほか、質の高い農村環境保全活動などの取組や、活動組織のNPO法人化などです。

促進費の交付額

・取組水準に応じ、20万円/地区又は40万円/地区(国と地方公共団体の合計)を交付

今回は、本年度の実験事業における具体的な活動状況を紹介します。

◇◇その他(意見、提案の募集).....◆

～皆様のご意見をお寄せ下さい～

定期的に、諫早湾干拓室からのお便りを差し上げているところですが、お知らせの内容その他につきましてのご意見やご要望等ございましたら、諫早湾干拓室までお寄せ下さい。

なお、今後、お便りを差し上げる場合にEmailでの送付をご希望の方はメールアドレスをお知らせ下さい。

送付先 〒850-8570(住所記載不要) 長崎県農林部諫早湾干拓室
(TEL 095-895-2051 FAX 095-895-2595)

Email s07050@pref.nagasaki.lg.jp

お願い Emailでご意見やご要望等をお寄せいただく場合には、恐れ入りますがメールの件名を 諫干だよりで設定し送信をお願いします。

●編集後記

今日から師走。今年もいよいよ残すところ1ヶ月となりました。師走は師も走ると書くとおり、非常に慌ただしいイメージがあります。年内にしなければならぬことを時間に追われて慌ただしくやり終えるという雰囲気です。諫早湾干拓事業も平成19年度の完成を間近に控え、着々と進捗しており、また、営農開始に向けて、様々なことに取り組んでおります。皆様におかれましても、何か気がかりなこと、気づかれたことがございましたら、どうぞ意見をお寄せください。冬も深まるにつれ、寒さも厳しくなりますが、風邪などに注意され、元気に新年をお迎えください。